

安芸税務署管内租税教育推進協議会長賞

「暮らしの中の税金」

東洋町立甲浦中学校 三年

大坪 由呼

私たちの住んでいる日本では、国民の義務として「納税の義務」というものがあります。税金の中にも色んな税があり、色んな所で私たちの生活に役立っています。

誰もが納めている税金として、私達に一番身近な消費税があります。

あまりにも当たり前存在していたので、私は消費税も税金の一部だと知ったとき、とても驚きました。でも、それと同時に、幼いながらも、自分も税金を納めているんだということにうれしさを感じました。

だからこそ、自分たちの納めた税金がどのように使われているのか、どんなことに役立っているのかとても気になりました。

調べてみると、予想以上にたくさんところで使われていました。

図書館などの公共施設、公立の病院や小・中学校の教科書代など、まだまだありますが、どれも今の私達にとって必要不可欠なものばかりです。

もし、納税の義務がなくなり、国民が税金を払わなくなってしまったら、日本はどんな国になるのでしょうか。

まず、児童・生徒の教育に多額の金額がかかるし、校舎も建てなくてはならないので一部の人達しか教育を受けられなくなり、日本全体の学力が低下します。

公立の病院も無くなり、病気になっても、治療できない人が増えます。他にも警察や消防士がいなくなるそうです。警察がいなかったら、事件が起きても、犯人が捕まらず、治安がどんどん悪くなっていきます。消防士がいなかったら、火事の時や、災害時にとても困難になります。

こんな国になってしまったとしたら、救える命も救えなくなり、もちろん他の国への支援など出来なくなってしまいます。

だから、たとえめんどくさいと思っても、高いと思っても、税金は今の私達にとって暮らしに無くてはならないものです。

私もこれから、色んな税金を払うことになると思いますが、今までの人が行ってきた国民の義務をきちんと果たしたいと思います。

そして、国民の思いが詰まった税金が、これからもっと役に立っていったらいいなと思います。